

多臓器不全を併発した頸部壊死性筋膜炎の1例

佐々木 慶太¹⁾ 米倉 修二¹⁾ 山崎 一樹¹⁾ 茶 藪 英 明¹⁾
鈴木 誉¹⁾ 花澤 豊行¹⁾ 岡本 美孝¹⁾ 藤川 明²⁾

1) 千葉大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科

2) 成田赤十字病院耳鼻咽喉科

壊死性筋膜炎とは浅層筋膜を細菌感染の主座として急速に壊死が拡大する軟部組織感染症でありその予後は不良とされている。

今回、私達は歯性感染症から広範な頸部壊死性筋膜炎を生じ、局所の感染は制御できたものの、多臓器不全を併発し不幸な転機をたどった1例を経験したので文献的考察を含め報告する。

症例は55歳女性、2005年12月26日に頸部膿瘍疑いにて近医より紹介受診された。受診時、右下顎歯の齶歯と歯肉炎および頸部の広範な発赤と一部皮膚潰瘍を認め、血液検査所見ではWBC16100、CRP13.0、Alb2.4、Glu400、HA1c8.5と高血糖と低栄養状態を呈していた。同日よりdebridementおよび抗生剤（CZOP + CLDM）投与を開始するも壊死は急速に拡大していった。細菌培養の結果 *prevotella species*、嫌気性グラム陽性桿菌が検出され、病理所見にて結合組織の壊死を伴う細菌感染の所見を認めたため、診断基準より壊死性筋膜炎をうたがい十分な安全域を取った周囲組織のdebridementと γ グロブリン大量投与および高圧酸素療法を行い頸部の感染は制御できた。広範な皮膚欠損に対し緊急で植皮術を予定していたが、ARDSを併発し、DIC、MOFとなり2006年3月21日亡くなられた。